

令和3年度（2021年度）

学校運営自己評価・学校関係者評価 報告書

武雄看護学校 看護科・准看護科

評価対象期間 令和3年4月1日～令和4年3月31日

1. 学校運営評価の目的

看護師等養成所として教育水準の維持・向上と創意工夫のある教育の追及を図るため、学校運営評価について必要な事項を定め、評価結果を活用して教育を改善していくことを目的とする。

2. 学校評価委員

| 学校委員氏名 | 所属 |
|--------|------------------|
| 溝口 克弘 | 武雄看護学校 学校長 |
| 太田 光博 | 武雄杵島地区医師会 会長 |
| 檜崎 史彦 | 武雄看護学校担当理事 |
| 草野 謙一郎 | 武雄看護学校担当理事 |
| 末藤 智子 | 武雄看護学校 副学校長 |
| 吉川 優紀 | 武雄看護学校 看護科 教務主任 |
| 平川 千里 | 武雄看護学校 准看護科 教務主任 |
| 横田 千春 | 武雄看護学校 看護科 副教務主任 |
| 西 涼子 | 武雄看護学校 看護科 副教務主任 |

3. 学校関係者評価委員

| 学校関係者評価委員 | 所属 | 区分 |
|-----------|------------------|---------|
| 持田 和幸 | 医療法人敬和会 持田病院 副院長 | 医師会担当理事 |
| 重村 剛 | 重村医院 院長 | 医師会担当理事 |
| 松尾 竜一 | 医療法人整肢会 副島整形外科病院 | 卒業生 |
| 山口 貴美子 | 医療法人静便堂 白石共立病院 | 卒業生 |

4. 自己評価基準

各項目の達成度により、下記の5段階で自己評価する。

- 5 (よい) : 9割
- 4 (ややよい) : 7割
- 3 (普通) : 5割
- 2 (やや不十分) : 2割
- 1 (不十分) : 1割

5. 学校関係者評価方法

自己評価の評価尺度（5段階）に対して、評価が適切か不適切かを評価する。

6. 学校運営評価（自己評価）の内容

- I.教育理念・教育目的
- II.教育目標
- III.教育課程・経営
- IV.教授・学習・評価課程
- V.経営・管理課程
- VI.入学
- VII.卒業・就業・進学
- VIII.地域社会/国際交流
- IX.研究

項目Ⅰ 教育理念、教育目的

総括

カリキュラム改正に伴い教員全体で教育理念から見直しを行った。理念に基づき看護科・准看護科それぞれの教育目標を掲げ、学習内容との一貫性があるようにカリキュラムの構築を行うことができた。（准看護科は令和4年度より、看護科は令和5年度より新カリキュラムに移行する。）

課題・改善策

その時の保健・医療・福祉分野のニーズに合わせて人材育成像を見直す機会を設けていないため、その都度改善できるような体制を整えていく必要がある。

小項目 Ⅰ-1

学習内容は、教育理念・教育目標と一貫性があり、時代の要請に応える内容になっているか。

■自己評価：3 ■；学校関係者評価：適合

■コメント

- 1.カリキュラム委員会等で検討されているのではないか。

- 2.教員で週に1回の会議をされており適性と思われる。
- 3.学習内容は時代の要請にこたえる内容に必要時修正するようにしたほうがいだろう。

項目Ⅱ 教育目標

総括

学生便覧や実習要綱に看護科・准看護科それぞれにおいて教育目標を明示している。また、ホームページに教育目標を明示することで在校生・教職員以外の外部の方へも伝わりやすい工夫をしている。准看護科においては、実習要綱に学年ごとの到達目標と卒業時の到達目標を掲示し、准看護師として身につけるべき資質を明確に示している。以前は到達度について毎年分析し見直しを行っていたが、現在は実施できていない。看護科においては、厚生労働省の「看護師に求められる実践能力と卒業時の到達目標」にそって看護師に必要な資質を求めているが、明示することができていない。

課題・改善策

看護科・准看護科ともに教育目標の明示を継続するだけでなく、卒業時の到達度について分析できるような機会を設けていく必要がある。

小項目 Ⅱ-1

卒業時において持つべき看護師・准看護師の資質を、教育目標に明示しているとともに、卒業時の到達状況を分析しているか。

■自己評価： 3 ■；学校関係者評価： 適合

■コメント

- 1.話し合う機会、評価する機会を設けてみてはどうか。
- 2.卒業時において持つべき資格は国家試験、資格試験に反映される。
- 3.両科の実習要綱を見る機会があるが各段階での目標が明文化されている。
- 4.教員間で到達状況を評価する機会が必要である。

項目Ⅲ 教育課程・経営

総括

実習目標の到達にむけては各実習前に病院・施設側と相談会を行ったり、実習終了後には反省会を行うことで実習環境に関しては病院・施設側の協力の元に整備することが出来ている。また病院・施設側の協力が十分に得られ

ることで、同じ方向性をもって実習指導にあたる事が出来ている。しかし、現在は新型コロナウイルスの影響により思うように病院や施設での実習ができないことも多い。学内実習においても実習目標が到達できるように教育用電子カルテシステムを導入したり、シミュレーションを多く取り入れた内容にしたりと工夫をしながらなるべく臨地実習に近づけた環境を整えている。

臨地実習を行うにあたり受持ち患者様には同意書を記載していただき、看護ケアを受ける人々の権利が守られるように配慮して実習を実施している。インシデント、アクシデントがおきた際にはすぐに対応し、他の学生にも同じ事を繰り返さないように周知することで対策をとっている。

その年度によって必要な教員研修を適宜行っており、それぞれの教員の学びで終わるのではなく全員で共有し問題解決していけるように取り組んでいる。必要時、受講した研修内容を伝達講習の形で学びの共有を行っている。昨年度からは新型コロナウイルスの影響でオンライン研修が多くなり、ほとんどの教員が希望した研修を受講できている。

現在のところ、臨床看護研修の実施はできていない。新型コロナウイルスの影響もあり臨床側の受入れ自体が厳しい状況であることも現状としてあるため、今後の状況を判断しながら計画をしていく。

学内で教員同士が授業評価をすることは今まで行っていなかったが今年度から計画を立てている。今年度は初めての取り組みで、全員の教員の計画は立てていないが、徐々にお互いの授業評価が出来るように予定をあげている。

課題・改善策

実習に関しては新型コロナウイルスの影響で臨地実習での受け入れが困難な状況が今後も続ことが予測される。今年度同様に学内実習の充実を図りながら、臨地での実習が実施できるように病院・施設と調整を図っていききたい。

実習においては学生の権利を擁護しつつ、同時に学生を通して看護ケアを受け入れてくださる人々の権利も擁護していけるよう取り組みを続けていく。また安全で安楽な看護ケアが実施できることを念頭に教育活動を継続していく。

担当する領域の教育内容が充実するように、各教員が積極的に研修に参加し専門性を高めていく必要がある。

小項目 III-1

実習目標が達成されるよう実習環境が整備されているか。

■自己評価： 4 ■；学校関係者評価： 適合

■コメント

1.当院もコロナ禍で十分な実習指導態勢を整えることができなかった。

実習に対して教員は熱い思いで指導されており適性度は高い。

小項目 III-2

実習指導者と教員の役割を明確にし、互いに協力し実習指導にあたる体制があるか。

■自己評価： 5 ■；学校関係者評価： 適合

■コメント

1. 教員が一生懸命指導され、指導者側も勉強になる。

小項目 III-3

実習時の患者への倫理的配慮を励行しているか。

■自己評価： 4 ■；学校関係者評価： 適合

■コメント

1. ガイドラインを作成してはどうか。
2. 倫理的配慮は問題なく実施されている。また、カンファレンスを通して指導されている。

小項目 III-4

実習時のインシデント/アクシデント等を分析し、学生指導に活かしているか。

■自己評価： 4 ■；学校関係者評価： 適合

■コメント

1. 科ごとでなくても安全カンファレンスは実施されているのでは
2. インシデント、アクシデントは厳しすぎるほど分析されている。当事者に対しては適切にされている。

小項目 III-5

学校の抱えている課題を踏まえた職場内研修を行っているか。

■自己評価： 3 ■；学校関係者評価： 適合

■コメント

1. 教育計画を十分にされている。
2. 他校の参加が望ましいのであれば、オンライン参加を呼びかけてみてはいかがでしょうか。
3. 他校からの参加を検討すべきだろう。

小項目 III-6

学会または研修等に参加した成果を他の教職員に還元する仕組みがあるか。

■自己評価： 5 ■；学校関係者評価： 適合

■コメント

1. 学会に参加できないのでオンライン等で新しい知見を取り入れる努力が

うかがえる。

小項目 III-7

教員が計画的に臨床看護研修に参加できるよう支援しているか。

■自己評価： 1 ■；学校関係者評価：適合

■コメント

- 1.臨床の現場を経験すると、現在の臨床の問題点を体験でき、それが講義に活かされていく。
- 2.今後の課題

小項目 III-8

教員の授業を他の教員が参観、講評できる制度があるか。

■自己評価： 3 ■；学校関係者評価：適合

■コメント

- 1.他の先生の講義を見て聞くことは、自分の講義に活かされる。
- 2.このような試みをされているとは知らなかった。良いことと考える。

項目IV 教授・学習・評価過程

総括

授業計画は、科目ごとに作成をしている。専任教員の授業については、授業開始前に授業計画を示し説明を行っている。外部講師の授業計画については、講師にゆだねておりすべての授業計画を示すことができていない。

授業方法の工夫については、『学生のレディネスに応じた授業方法』『シミュレーション教育の実際』『学生の主体性を引き出す授業』に関するセミナーを受講し、学生のレベルに応じた授業の工夫につなげている。

学生の単位取得及び全科履修に関しては、成績不振に悩む学生に対して個別に学習支援を行っている。

評価基準と方法については、学則・細則で規定しており、規定にのっとって認定を行っている。

課題・改善策

授業計画については、年度の初めに、すべての学生へ配布できるように準備を進めていく。また、授業を計画するにあたっては、前年度の授業評価で得られた学生の意見を講義内容や方法に反映していく。

小項目 IV-1

授業計画が作成され、教育課程との整合性があり、学生が授業内容を理解できるようにしているか。

■自己評価： 2 ■；学校関係者評価： 適合

■コメント

1. せっかく評価アンケートが実施されているので活用を目指してください。
2. 学生に評価させるのも一つの方法。
3. 授業評価の結果が反映するような取り組み、担当者間の調整が必要である。

小項目 IV-2

効果的な授業運営を図るため、適切に時間割を調整しているか。

■自己評価： 4 ■；学校関係者評価： 適合

■コメント

1. 時間割については全く問題なし。

小項目 IV-3

授業内容や指導方法が学生レベルにあうよう工夫・改善しているか。

■自己評価： 1 ■；学校関係者評価： 適合

■コメント

1. 授業案が無くて授業ができるのでしょうか。
2. 学生のレベルに合わせて個別対応されている。
3. 今後の課題
4. 学生レベルに合うように、指導案を検討すべきだろう。

小項目 IV-4

(看護科)

学生の単位取得にむけた支援を実施しているか。

(准護科)

全科履修に向けた支援を実施しているか。

■自己評価： 5 ■；学校関係者評価： 適合

■コメント

1. 学生のレベルに合わせて個別対応している。

小項目 IV-5

学生に修了認定のための評価基準と方法を公表しており、かつ、評価について公平性・妥当性が保たれているか。

■自己評価： 3 ■；学校関係者評価： 適合

■コメント

1. 年齢が若い学生が多いので再チャレンジの機会を与えてほしい。

2.模範解答を公示できるテストなどは、一定期間掲示されるとテストを通じての学力向上が期待されるかも知れないですね。

項目V 経営・管理課程

総括

第4次カリキュラム改正を機会に、医師会立の看護学校として地域で活躍する看護師・准看護師育成を軸とし、教育理念を『本校は「人を大切にする心」を信条とし、誇りを持って地域の保健・医療・福祉の場で活躍できる看護師と准看護師を育成する。』と設定して取り組みを開始した。

学校運営評価については、自己評価・学校関係者評価の体制が整った。学校関係者評価委員から評価の適正の有無と改善策の意見を得て、学生の学びが深まるような学生支援に取り組んでいく。

授業評価については、専任教員が自己の講義を改善していくために活用している。しかし、カリキュラム全体を見直すために授業評価を活用するには至っていない。

学生の支援については、主に学習面、精神面、経済面に視点をおき取り組んでいる。看護師国家試験・准看護師資格試験を含む学習面と精神面については、面談等で学生個人の状況をみながら支援を行っている。また、経済的理由による退学・休学を招かないよう、教育訓練給付金や奨学金制度等の経済的支援に関する案内・相談体制は整っている。

学生募集については、オープンキャンパス（WEB）をはじめ高校の進路ガイダンス、高校訪問、佐賀県私学課の主導による学校案内に取り組んでいる。受験者数の前年度比は、維持の状態である。

ICT教育の充実に向けた施設設備や防災のための体制については、実施に向けて施設整備計画が整った。

課題・改善策

3年後、5年後の学校のビジョンを見据えた組織目標の策定が必要である。運営委員会を中心に、医師会立看護学校として必要とされる看護職育成にどのような方向性で取り組んでいくべきかを協議し、組織目標を明確にする。

小項目V-1

策定しており、かつ、その目標が教職員に理解されているか。

■自己評価： 1 ■；学校関係者評価： 適合

■コメント

- 1.教育目標があるのに組織目標が策定されていないのはなぜでしょうか。
- 2.組織目標は、1年で達成できるもの？あるいは、5年程で達成するものか？
- 3.組織目標の設定を行うべきだろう。

小項目 V-2

組織目標に対する評価を実施し、その結果を教職員に周知するとともに、次年度の目標につなげているか。

■自己評価： 1 ■；学校関係者評価： 適合

■コメント

- 1.今後の課題
- 2.組織目標の設定を行うべきだろう。

小項目 V-3

学校運営評価を組織的に実施し、評価結果を教職員に周知するとともに、外部にも公表しているか。また、評価結果をもとに改善計画を策定しているか。

■自己評価： 4 ■；学校関係者評価： 適合

■コメント

- 1.現在実施されている。

小項目 V-4

管理職のリーダーシップのもと、両科主任がそれぞれの部署をまとめチーム力を発揮し問題解決に当たっている。

■自己評価： 3 ■；学校関係者評価： 適合

■コメント

- 1.どの教員も学生に十分な指導をされている。両科ともに共通認識を感じる。

小項目 V-5

学生による授業評価及び教員の自己評価を実施し、授業の改善に努めているか。

■自己評価： 2 ■；学校関係者評価： 適合

■コメント

- 1.自己評価の実施
- 2.教員の自己評価を実施したほうがいだろう。

小項目 V-6

より多くの応募者を確保することに努めているか。

■自己評価： 4 ■；学校関係者評価： 適合

■コメント

- 1.准看護科は充分定員に達するが、看護科は定員を割ることが多い。
- 2.出身高校へのフィードバックは必要かも。

小項目 V-7

国試・資格試験の合格率が100%となるよう、教職員一丸となって取り組んでいるか。

■自己評価： 4 ■；学校関係者評価： 適合

■コメント

- 1.国家試験合格率などは生徒の質より職員の質を反映すると言われています。合格率はいいので、職員は自分の教え方に自信を持って良いと思います。
- 2.ほぼ100%を毎年達成されている。不合格者に対しても援助されている。

小項目 V-8

経済的、精神的側面からの学業継続支援体制が整い、効果的に活用しているか。

■自己評価： 5 ■；学校関係者評価： 適合

■コメント

- 1.学生はカウンセリングを受けられるという環境が整っていることに対して安心感を抱くと思います。
- 2.学生の特性に合わせて援助されている。

小項目 V-9

学生の身体的側面の健康確保に努めているか。

■自己評価： 4 ■；学校関係者評価： 適合

■コメント

- 1.コロナ対策も十分すぎるほど厳しい対策を実施されている。
- 2.校医の相談日は必要かも。

小項目 V-10

予算計画、年間事業計画を策定し、適正な予算の執行・進行管理を行っているか。

■自己評価： 5 ■；学校関係者評価： 適合

■コメント

- 1.一度図書館を利用したが以前に比べて施設もきれいで資料もそろっていた。

小項目 V-11

学生や教職員等の人権・個人情報の保護について十分な対策がなされているか。また、学生、教職員に対しそれらの徹底を図っているか。

■自己評価： 3 ■；学校関係者評価： 適合

■コメント

1. 倫理的問題について聞いたことがない。
2. 個人情報の管理は厳重にしなければならない。

小項目 V-12

災害など非常時の危機管理体制が整備されているか。また、防犯・交通安全意識の向上に努めているか。

■自己評価： 2 ■；学校関係者評価： 適合

■コメント

1. 玄関に防犯カメラをつけるなど不審者侵入防止対策を取るべきでは。講習会を開催しなくても何かほかの方法はないか。
2. 防災、不審者に対する訓練はあってもいいのでは。
3. 危機管理体制の整備が必要である。

小項目 V-13

学校運営に学生の意見が反映されるように努めているか。

■自己評価： 5 ■；学校関係者評価： 適合

■コメント

1. 学生の意見を十分聞かれている。
2. どの様な改善が行われているか実際に把握できなかつたためこの評価となりました。

小項目 V-14

施設・設備の安心・安全が確保されているとともに障害者の利用に配慮された構造になっているか。

■自己評価： 2 ■；学校関係者評価： 適合

■コメント

1. 今後は、障害者に対する運営が必要ないなるかも。
2. 校舎にエレベーターは必要なのでしょうか。今から設置するのは現実的ではないような気がしますので、項目を削除してはいかがでしょうか。

小項目 V-15

教育目標達成に必要な施設設備及び教材が整っているか。また学生の自主的な学習の場が確保されているか。

■自己評価： 4 ■；学校関係者評価： 適合

■コメント

1. パソコンは何人に一台使用可能ですか。
2. 以前に比べて機材や教材がそろっている。

小項目 V-16

学生のための福利厚生施設・設備は整っているか。

■自己評価： 4 ■；学校関係者評価： 適合

■コメント

1.以前に比べて施設を自由に使用できる。

小項目 V-17

図書室は利用しやすく学生に十分活用されているか。

■自己評価： 2 ■；学校関係者評価： 適合

■コメント

1.学生が図書室で勉強したい、調べ物をしたいと思える図書室になればいいと思います。

2.自分にとっては、十分な図書館であるが、「評価の視点」を見るとハードルが高い。

3.図書室の利用を見直すべきであろう。

小項目 V-18

実習室は学生数に応じたスペースが確保され、必要な備品設備が整い、十分にその機能を果たしているか。

■自己評価： 5 ■；学校関係者評価： 適合

■コメント

1.実習室は、実際に見たことはないが、写真で見ると依然と比べものにならない程立派。

小項目 V-19

学校の存在を周知するため、ホームページ、携帯サイトをはじめとした積極的な広報活動をしているか。

■自己評価： 4 ■；学校関係者評価： 適合

■コメント

1.ホームページを時々見るが、十分な情報が得られる。

2.卒業生に必要な情報を考慮したい。

項目VI 入学

総括

入学生に対しては、入学説明会を行い入学前課題の提示や入学前の個別相談による対応を行っている。入学式後には、授業や実習に臨むための姿勢が

整うように入学オリエンテーションを実施している。また、学習、仕事、家庭の両立ができるように、学習面・精神面・生活面に焦点をあてて面談を行い、個人やクラス全体に必要な対応を行っている。

課題・改善策

働きながら学ぶ学生にとって、学びやすい学修環境を整えるため、授業及び実習アンケートを通して、学生の声を聴き対応を図る。定期的な個人面談を継続し、学生個人の抱える不安や困難について速やかに対応していく。

入学後、スムーズに就学が図れるよう、他学年との交流の場を作り学生間での学び合いができる体制を図る。

小項目VI-1

入学生への支援を行っているか。

■自己評価： 5 ■；学校関係者評価： 適合

■コメント

- 1.働きながら学ぶ当校の学生は、職場と学校両方のストレスがあり大変だと思えます。肉体的、精神的なサポートは必要ですね。
- 2.十分にされている。

項目VII 卒業・就業・進学

総括

勤務施設が決定していない学生の希望に応じ、就職情報の開示と相談体制を整えている。近年、県外への就職希望者が増えている。地域で活躍する看護職育成という役割を考えると、就職に関する支援の在り方については、検討が必要である。

課題・改善策

在校生の県内就職率を高める取り組みが必要である。また、既卒生が県外より戻ってきたときの就業支援が必要である。

県内の就職情報について一定期間掲示を行い周知していく。

県外へ就職した卒業生が県内に戻った時の就業支援体制を整える。

小項目VII-1

卒業生への支援を行っているか。

■自己評価： 4 ■；学校関係者評価： 適合

■コメント

1.オープンキャンパス等で卒業生の参加を実施されている。

小項目VII-2

卒業生の県内就職率を高めるよう努めているか。

■自己評価： 5 ■；学校関係者評価： 適合

■コメント

1.このような、数値目標、評価項目があるのを知らなかった。

小項目VII-3

進学、就職などの進路に関して学生の相談に十分応じているか。

■自己評価： 3 ■；学校関係者評価： 適合

■コメント

1.十分なされている。

2.4項目は、情報収集を行わなくても分かっているようですので文書を変更してみてもいかがでしょうか。

3.依頼があった場合のみでなく、定期的に面談を行い現状を把握していてもよいのではと思います。病院勤務をしながら学業との両立をしている学生、その他進学・就職に悩みを持つ学生多々いるかと思います。

項目VIII 地域社会/国際交流

総括

学生が勤務する医療機関や実習施設とは、報告や意見交換を通して連携を図っている。地域の小中高校の教育活動への協力については、看護学生または看護教員による講座について高校へ案内を開始したが講座の実施には至っておらず、地域貢献については課題が大きい。

課題・改善策

医師会立の看護学校として地域貢献につながる活動の実施ができていない。看護学生または看護教員による、講座の紹介を継続する。コロナウイルス感染症の感染対策を図りながら、地域のボランティア活動へ参加していく。

小項目VIII-1

地域社会の一員として、地域への広報・貢献・奉仕活動・連携の工夫を行っ

ているか。

■自己評価： 1 ■；学校関係者評価：適合

■コメント

- 1.評価の視点を少なくしては。何ができるか。
- 2.歴史もあり、地域に密着した学校なので、何らかの活動があっただけ良いのでは。
- 3.コロナ禍ですので難しいですね。
- 4.地域への交流が必要かも。

項目IX 研究

総括

令和3年度より、関連する講義を担当する専任教員間で、授業の聴講及び授業評価を開始した。評価を受け改善点が明らかになった点については、次年度の講義計画に反映させている。しかし、教員全員での授業研究には至っていない。また、研究調査活動については、必要性が明確にできていないため活動できていない。

課題・改善策

専任教員全員参加による授業研究の実施に向け実施目的・方法を明確にした実施要領を作成する。

研究調査活動については、研究調査活動の必要性を検討する。必要性・目的が明確にできれば実施について計画を立てる。

小項目IX-1

教員が計画的に研究調査活動を行えるよう体制を整えているか。

■自己評価： 1 ■；学校関係者評価：適合

■コメント

- 1.学会に参加すると看護学校単位で発表があり。まず、学会参加から始めてみてはどうか。
- 2.評価の視点に対するその現状の文言に違和感を感じます。80%→81%、90%→91%。3項目は文書間違いでしょうか。
- 3.教育の研究活動の体制がもう少し必要かも。